

# Le Monde de Keishin

vol. **2**  
2014

## ようこそ慶進の世界へ

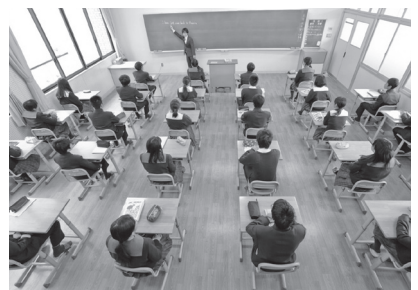


### CONTENTS

- 2 ようこそ慶進の世界へ
- 3 1st Stage 慶進という新世界／教科のコラム
- 4 2nd Stage 慶進の世界が違ってみる
- 6 アンケートにみる慶進  
Les Anciens de Keishin

- 7 La Classe de Keishin
- 8 3rd Stage 5期生が開いた新世界の扉
- 10 同窓生「4期生の慶進」
- 12 La Photo de Keishin  
平成26年度合格速報  
小さな本箱

# ようこそ慶進の世界へ 夢を抱く慶進生が創る新世界



シャーロックホームズとエルキュールポアロ。英国を代表する名探偵です。この二人、全くタイプを異にする探偵です。ホームズは時に馬丁に扮するなど実に快活に動き、事件を解決します。一方、ポアロは滑稽に見える時もあるほど恰幅がよく、お世辞にもかっこいいといえませんが、そして、フランス人と間違えられるのを嫌います。しかし、その愛嬌ある姿が「灰色の脳細胞」を駆使して事件を解決するポアロの魅力を引き立てます。だが、読み比べてわかるのは、これだけではありません。英国の変化に気づかれます。ホームズの第一作『ボヘミアの醜聞』は、一八八八年の英国を舞台としています。一方、ポアロの第一作『スタイルズ荘の怪事件』は一九一六年です。このわずか二十数年の間で、英国は大きく変化しました。『ボヘミアの醜聞』では依頼者は高価な四輪馬車でホームズを訪ねます。『スタイルズ荘の怪事件』では、後に相棒となるヘースティングスが車でスタイルズ荘を訪れます。馬車から自動車へ、四半世紀もかけずに人々の世界は劇的に変化しました。

本誌の表紙絵は、この二作の間の時期を描いています。

す。場所は世界遺産の自由の女神をすぐ南方に臨むマンハッタンの一郭です。場所は英国ではありませんが、高架の鉄道が敷かれ、馬車が描かれています。劇的に発展する二十世紀初頭のアメリカを予見させるものです。だが、ここもかつては農場でした。広大な農場が、あれよあれよという間に都市に変化していきました。夢を抱き、野心に溢れた人々が、遠く欧州からこの新世界を訪れ、そして変えていったのです。

「慶進の世界(Le Monde de Keshin)」も、この表紙絵のように躍動感に溢れています。十年という歳月の中で創られた慶進の世界は、まだまだ創生期です。5期生はこの世界を創ることで、新世界への扉を開きました。後輩たちは、自分たちが創り変化する新世界に、楽しみを覚えています。そして、11期生にとって、この「慶進の世界」はまさに新世界でしょう。11期生がどんな世界を創ってくれるのかと思うと、私たちは今から胸が躍ります。でも、その前に11期生を迎え入れる「慶進の世界」がどんなものか、それをみなさんに紹介いたします。

## 6年中高一貫教育

慶進では一生ものの学力を身につけるために、6年間で2・2・2の3つのステージで構成しています。勉強のおもしろさを知ることから始まり、テストや個別指導、さらには演習を重ねながら大学進学に向けて着実にステップアップを目指します。

### 1st Stage

基礎学力養成期

中学1年生

中学2年生

### 2nd Stage

応用充実期

中学3年生

高校1年生

### 3rd Stage

発展応用期

高校2年生

高校3年生

1st Stage

## 慶進という新世界

生徒会副会長 10期生

中村龍一郎(中2)



平成25年度4月、僕たちは慶進中学校の10期生として入学してきました。自分が知っている人は三、四人でも不安でした。そんな中での入学式はとても緊張しました。それから、ほとんど何も分からないまま一週間がたち、僕たちは宿泊研修のため徳地へ行くことになりました。まず初めに班決めをしました。ぼくは「知っている友達といっしょになるように」と願っていました。しかし、残念なことにその願いは叶わず、僕のグループの人たちは話したこともない全く知らない人たちばかりでした。僕の不安はさらに高まりました。しかし、徳地に行つて、みんなでご飯を食べたり、色々な遊びを楽しんだりしているうちに、不安はだんだん消えていき、一秒一秒がとても楽しい思い出となつていきま

した。そして最後の日、僕たちは、信頼し合える仲間となつて慶進中学校に帰つてきました。宿泊研修という一つの壁を越えた僕たちの前に次に立ちはだかるのは、中間テストという壁でした。その時はみんなどういふことをすればいいのかも分からず、授業もテスト前とは思えない状態だったと思います。しかし今は、一学期とちがひ、テストで点を取ろうとする意識がすごく高まつてきていると思います。次に立ちはだかるのが第三の壁、慶進祭です。慶進祭とは、中学生から高校生、先生、保護者の方々までが一体となつて創り上げる文化祭です。クラスごとに店を開いたり、展示を出した

ります。

僕たち一年一組はどういうふうに始めたらいいのかわからず、あまり全体がまとまっていなかったので仕上がるのがぎりぎりでした。当日、高校生はどんなことをしているのかと行つてみました。するとそこでは食べ物売っていたり、ゲームをするところがあったりで本当に驚きました。もうすでに学校の催しとは思えない質の高いものでした。僕たちも二年生になつたら、もっと質の高いものを作ろうと思いました。そして、最後の壁が卒業式です。中学校の卒業式は小学校よりいっそう厳かな空気が漂っていました。練習できる期間はとても短かっ

## 教科のコラム「国語・ディベート」

1858年幕末、松下村塾の八畳間ではどのような議論が交わされていたのでしょうか。

言うなれば、「日本は開国すべきだ、是か非か」という論題で多くを語り合い、日本の未来を考え、立ち上がっていった一あれから150年が経った現在、日本そして世界にはやはり多くの課題があります。私たちは、まずそれを知り、考え、よりリアルに未来をイメージして行動していかなければならない。

2013年度校内ディベート大会、中1・2の論題は、「日本は、全ての飲食店にドギーバッグ(食べ残しを持ち帰る容器)の常備を義務化すべきだ。是か非か」。中3の論題は「日本は死刑制度を廃止すべきだ。是か非か」。日本・世界の食糧問題や食中毒について、あるいは日本の治安、生きる権利、命について深い理解と想像力を養うことができました。

慶進の国語科は、今後の日本を担う若者たちがディベートを通して「知る」・「調べる」・「考える」・「書く」・「話す」・「聴く」能力を涵養し、自ら志を立て、たくましく行動できる人間に育っていくことを願っています。多くの課題があり、多くの人と議論し、多くの人と共に行動しなければならない現代だからこそ、求められる大切な「学力」ではないでしょうか。

国語科 古川 義郎

たですが、全力でやることで、でき、良い式になつたと思います。僕たちはこの一年間で何倍も成長できたと思います。4月の自分からだとして、今の自分、今のクラスの光景は予想もできません。僕

たちは慶進中学校1年生でたくさんさんのことを学ぶことができました。そして、慶進に行くことができるのは、僕の親や、僕を支えてくれた人たちのおかげだと思っています。感謝しています。

## 2nd Stage

## 慶進の世界が違ってみえる

慶進中学校・高等学校は中高一貫です。6年間だからこそできることがあります。そして、6年間だからこそ自分の成長と慶進の進化を感じ、慶進の世界が変わりゆくのをみることが出来ます。セカンドステージを終え、4年間を過ごしてみえてきた慶進の世界を、7期生の田中奏子さん(高校2年)と中野明日香さん(高校2年)に聞いてみました。

4年間過ごして見える  
慶進の世界は？

田中 高校生になると、

中高一貫コースだけでなく、アドバンスコースやグローバルコースの人達と一緒にの行事が増え、中でも体育祭は人数も規模も大きく、他のコースの人達との関わりが増えた分、慶進がより一体になり、世界が大きく広がりました。

中野 中学校の時と比べて、勉強面が難しくなりました。成績評価が5段階評価から10段階評価に変わったり、より本格的な勉強体制が始まり、受験に向けての世界観がスタートした感じです。

中学3年生で語学研修  
(オーストラリア)に  
行ってどうでしたか？

田中 楽しかったです。

中野 私はもう一度行きたいです。なぜなら中3の時より、少しは英語力が上がったと思うので、もっと自分の意思を伝え、表現できたらまた違った世界が広がると思うからです。

司会 何が楽しかった？

中野 勉強がなかったことです。(笑)楽しかったとは違うのですが、異世界に行った感じでした。

司会 何が異世界？

中野 言葉が違うことが異世界でした。伝えたい

ことが伝わらないもどかしさを感じました。ジェスチャーなどを使って伝える努力をしていると、みんなも私に分かるようにゆつくり話してくれたり、ホストファミリーの7歳の女の子は絵を描いて説明してくれて優しかったです。

オーストラリアならではの  
だなと思ったことは？

田中 朝ごはんがコーンフレークとお水だけだったり、学校での昼ご飯がサンドイッチとリンゴまるごと1個またはバナナ1本に、プラスお菓子が少し入っていたことです。  
中野 就寝時間が早いこ

とです。8時か9時には寝てしまうことには驚きました。でも私は寝られなくて…

司会 どうしてた？

中野 英語で日記を書いていた。

語学研修に行つて変  
わったことは？

田中 もっと英語を勉強したいと思いました。もともと国際関係や語学に興味があり、オーストラリアに行つたことにより、英語の重要性を感じたからです。

司会 なぜ英語が重要？

田中 共通語の英語を話すことができれば、どこに行つても誰とでもコミュニ

ケーションをとることができるからです。私は中3の夏にフランスのパリに行った際、同じ学年の女の子に会う機会があり、英語で話したら何となくですが、コミュニケーションがとれたので、やはり重要だと感じました。

司会 中野さんが変わったことは？

中野 もっと積極的になりたいと思いました。オーストラリアの学校に行つて感じたのは、積極的に発言している人が多く、自分も積極的に行動しなくてはいけないと感じたし、何事も楽しんだ者勝ちだと思いました。



▲中野明日香さん



▲田中奏子さん

次にほんなもん体験の久住登山はどうだった？

田中 最初は、何で山に登るんだろうと思っていました。登り始めて、途中から段々きつくなってきたんですが、頂上に着いたら、疲れもなくなるぐらいの達成感があり、がんばってよかったと思います。

司会 田植えはどうだった？

中野 初めての体験だったんですけど、印象に残っているのは田中さんです。隣で植えてる田中さんが、手が汚れるのが嫌だと言って、しっかり植えた

くて、苗が倒れていたのが印象に残っています。(笑)

司会 農業・漁業体験は何を選択しましたか？

田中・中野 船釣りです。

司会 船釣りはどうだった？

田中・中野 楽しかったです。

中野 私は1匹しか釣れなかったんですが、同じ船に乗った子はたくさん釣れて、うらやましかったです。

司会 田中さんはどうだった？

田中 楽しかったのですが、その後釣りが好きになり、中野さんと他に部活の仲間と一緒に釣りに行きました。

司会 釣れた？

田中 はい、釣れました。

ほんなもん体験は普段しない体験だった？

田中 はい。船釣りを体験していなかったら、こんなに釣りが好きにならなかったし、釣りに行くこともなかったと思います。

ほんなもん体験で体験した世界は？

中野 私の地元(西岐波)の雰囲気似ていて、変わったというよりは、懐かしさがありました。似たような場所が他にもあるんだなと思いました。

田中 今までは世界進出やグローバル化などにか目がむいていなかったのですが、田植えや船釣りを体験してみて、楽しかったし、人と自然との関わりの大切さを感じました。

最後に新入生に向けて、慶進という世界で頑張してほしいことは？

田中 勉強はもちろんですが、慶進では修学旅行や語学研修、ほんなもん体験など色々な体験ができるので、思い出を作りつつ、世界観を広げていく

とより慶進が楽しめると思います。

中野 新しいことに挑戦してほしいです。まずは友達づくりです。同じ小学校の子が少ない中で友達が足りず、最初の挑戦になると思います。次に、小学校とは違う勉強で

す。私の場合は英語で、姉がスピーチ大会などに出場する姿を見て「すごいな」と感じ、自分も経験したことで自信につながったので、ぜひ慶進では新しいことにたくさん挑戦し世界を広げてほしいです。

## 語学研修

### Event of KEISHIN



中学校3年生の3月にオーストラリアで2週間の語学研修をおこないます(希望者)。現地でホームステイをしながら語学学校に通います。言語・習慣など日本と異なる世界を経験し、一回り大きく成長します。

## ほんなもん体験

高校1年生で九重登山や農業・漁業体験をおこないます。登山で達成感を共有し、民泊をして人の暖かさを感じます。また、船釣り・アスパラの収穫・酪農などから一つを選択する農業・漁業体験では、人間生活の営みに触れます。この経験を通して、豊かな感性を養い、仲間との絆を深めていきます。

# アンケートにみる慶進

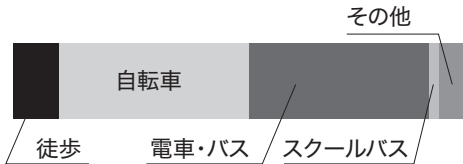


昨年の12月、皆さんに協力してもらったアンケート。その集計結果をお届けします。

「なるほど、なるほど」「え～、意外!」「ふ～ん、そうなんだあ～」…

あなたはどんな感想をもちましたか?

## ■学校までの通学手段

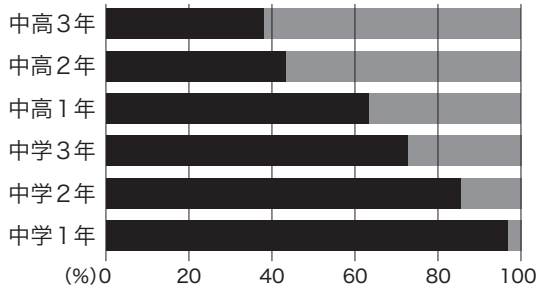


## ■学校までの通学時間



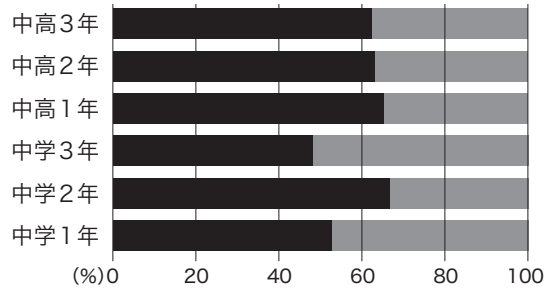
## ■部活動はしていますか?

■はい ■いいえ



## ■塾に通っていますか?

■はい ■いいえ



全日空勤務

1期生

山本みずほ

## 夢へのスタート

この度、長年の夢であった客室乗務員としての一歩を踏み出すことができました。就職活動の時期になってもやりたい事が見つからず、悩んでいる友人が多い中、明確な目標を持ち、自分の希望する企業に内定を頂けたのは、慶進での生活の影響が大きかったと改めて感じています。

中高一貫と言うことで、早い段階から自分の将来について考える機会を多く与えて頂き、自分が大学でどんな事を学びたいのか、その先どんな職業に就きたいのかを深く考えることができました。自分に自信がなく、「どうせ自分にはこんな夢は無理だ、叶うわけがない」と思っていたのも、先生方は決して否定せず、叶えるための方法を本気で親身になって考えてくださいました。今の自分のレベルで実現可能な目標を選ぶのではなく、少し高い目標であっても、諦めず努力する姿勢が大切だということを感じた6年間でした。

おかげで、大学生活でも自分の目標に向かって、様々なことに挑戦することができました。特に1年間の交換留学を通して「世界と日本を繋ぐような仕事をしたい、誰かを笑顔にできるような存在になりたい」と改めて強く思うようになりました。

そして今、社会人としての生活がスタートとし、大変なこともあります。やり甲斐のある仕事に出会えて幸せだと感じています。心に寄り添った温かいサービスができる客室乗務員を目標とし、今後も努力していきたいと思っています。



この度、長年の夢であった客室乗務員としての一歩を踏み出すことができました。就職活動の時期になってもやりたい事が見つからず、悩んでいる友人が多い中、明確な目標を持ち、自分の希望する企業に内定を頂けたのは、慶進での生活の影響が大きかったと改めて感じています。

## ■生徒が語る、慶進中学校・高等学校のココが魅力

- 1 友達と6年間一緒にいられる
- 2 高校受験がないのでのびのびと勉強ができる
- 3 進路や学習について先生方が親身に相談にのってくれる
- 4 ほっとラウンジ・スタディールーム・KSホールなど  
勉強できる環境が整っている
- 5 勉強の充実感が半端なく高い

BEST  
5

▲KSホール

こんな意見も  
ありました！

公立中学よりも先取りで勉強できるところ

(中学1年)

高校生という少し歳の離れた先輩と交流できるところ

(中学2年)

クエッションクレイジーカードでたくさんの先生と話せるところ (中学2年)

中高一貫だから後輩が先輩の背中を見て育つことができるところ (中高3年)

## Q。職員室に入れない

個人情報の管理などの観点から、みなさんの個人情報が漏れないようにするためです。でも、職員室に入れない分、オープンスペースやコミュニケーションルームを活用してください。職員室のカウンターから「〇〇先生お願いします」と呼んでもらうと、先生方はすぐに職員室から出てきますよ。

## Q。部活動の時間が少ない

平成26年度より水曜日が6時間授業となります。この時間を利用して部活動を充実させて欲しいです。また、部活動だけでなく、慶進祭の準備をしたり、先生に質問したりと、自分で時間の使い方を考え、有意義なものにしてください。

## Q。校舎が迷路みたい

多くの生徒が学ぶ学校なので校舎はとても広いですが、4号館と本館の完成により、オープンスペースやコミュニケーションルームなどみなさんの学習が進む環境が整備されました。広い校舎を探索して、慶進の世界の見聞を深めてください。

学校向上

Q &amp; A

La Classe de Keishin

## 石田先生の 数 学

石田先生の授業はとても楽しく、わかりやすいです。例えば、新しい定理などが出てくると、一つ一つ丁寧に説明してくれます。また、みんなが分からないところがあれば、より詳しく教えてくださり、誰が聞いても分かる授業だと僕は思います。

さらに、どのような時にどの公式や定理を使えば良いか、ただ解答を導き出す方法だけでなく、より美しく、分かりやすい解答の書き方を教えてくださるので大変助かります。

石田先生の作る単元テストは、難しく、何度も何度も復習し、その単元の内容を完璧にしておかなければ、解くことが出来ません。

中学生の模試は、高校生になってから受ける模試の回数よりも少ないので、石田先生が作る単元テストは、いい力試しになり、自分が今どのくらい理解出来ているのか、どのあたりが苦手なのかというのが、よくわかります。

僕はテストが返ってくると、間違えていたところを復習し、テスト範囲の内容で分からないままにならないようにしています。

僕たちはまだ中学3年生で、大学受験はおおよそ3年後です。ほとんどの人はまだ先のことだと思っているかもしれませんが、具体的に想像することも難しいです。

しかし、石田先生は授業の中で受験の話をされたり、テスト問題にセンター試験の問題や東京大学の過去問などが出題されていたりして、大学受験というものを身近に感じさせてくださいます。だから、僕たちの学年は、この1年間で、大学受験に対する意識が高まり、具体的な目標を持つ人も増えたのではないかと思います。

8期生 兼坂 崇太

3rd  
Stage

## 5期生が開いた新世界の扉



▶上段左から山田城くん、縄田英吾くん、下段左から弘中あやさん、西村蝶海さん

今春、5期生が新しい世界へ歩みを進めました。夢に描いた世界です。そして、6年間を過ごした慶進の世界がその扉を開きました。そこで、夢の扉を開いた慶進の世界を、4人の5期生に教えてもらいます。

## 夢のスタート地点

九州大学 医学部医学科

縄田 英吾

慶進で過ごした六年間を振り返ってみると、良き友、良き先生に恵まれて、僕は充実した時を過ごすことができました。ファーストステージでは、これから共に学校生

活を送っていく仲間との絆を深め、セカンドステージでは、自分の将来・進路をじっくりと考えることができた。そして、最後のサードステージでは、自分の夢や志の実現に向けて、仲間と切磋琢磨しながら努力することができました。特に高3の一年間は、担任の先生をはじめとする先生方が放課後で

も質問に答えてくださったりするだけでなく色々な相談にのってくださいました。また、高3はこれまで培ってきたことを活かした演習も行っていくのですが、それも中高一貫教育ならではのメリットだと思います。最後の一年間で、今まで学習してきたことを再確認し、確実に自分の力にすることができたおかげで合格を勝ち取ることもできたと思います。

勉強面だけでなく、様々な体験活動や語学研修、修学旅行などの経験により、チャレンジ精神や苦難に立ち向かう忍耐力を養うことができました。慶進で身につけた学んだ様々なことは、これらの人生の中でも大いに生かせると考えています。僕は、中高六年間、常に医師になることを夢見てきて、今ようやくそのスタート地点に立つことができました。これから真摯に努力を続け、色々なことにチャレンジする向上心を

持ち続けたいです。これから的人生において、僕が慶進で過ごした六年間は、かけがえのない大きな心の支えとなることを確信しています。僕は、慶進の卒業生であることに誇りに思っています。

最後に、後輩の皆さんへ、慶進での六年間は、長いようであつという間です。学校の先生、友人、そして両親に対する感謝を忘れず、常に向上心をもって頑張ってください。

## 六年のつながり

山口大学 医学部医学科

山田 城

私は慶進中学校に入学する前は、「慶進は中高一貫校だから、大学受験のために勉強ばかりするのだろう」と思っていました。それがそれは全くの間違ひでした。

部活もやり、多種多様な学校行事もあり、楽しく充実した学校生活を送ることが出来ます。その当時は気が付かなかったけれど、それらの行事一つ一つが自分を成長させていくものだったと思

ます。

この六年間を振り返って、私の考える慶進の最大の特長は「つながり」ということだと思っています。同級生はもちろんのこと、先輩と後輩、さらに先生とのつながりです。例えば、このことがはつきり分かる行事に慶進祭があります。

慶進祭では、中学1年生から高校3年生が全員一丸となつて、イベントを成功させようと準備します。また、クラスで1つの出しものを行うのですが、よりよいものを作り上げようと、クラス全員が協力し合います。中高を通じて計6回ありますが、段々と質の高いものを完成させることができ、とても達成感のある行事です。こういった様々な行事を通じて、クラスメートとの絆は強まっていき、自分自身も成長していくことができました。

このお互いが六年間で築いてきたチーム力は、高3の受験期に発揮されました。初めての受験で不安でしたが、クラスメートと勉強だけ

でなく、大学・入試情報を教え合い、励まし合いながら毎日を通していきました。

また、先生方ともとても親密で、担任の先生をはじめ、教科担当や部活の先生はもちろんのこと、直接関わってはいない先生方にも気軽に相談できる環境であり、いつも自分のことを見守ってくださっているのを強く感じていました。このつながりがあったからこそ、厳しい受験を乗り越えることができたと思います。

新中学1年生の皆さんも、慶進での充実した環境の中で「つながり」を感じ、お互い切磋琢磨し合いながら、自分自身を向上させていくてください。

慶進に感謝!!

大阪大学 法学部法学科

弘中 あや

私は今、合格という切符を手にして新世界へ踏み出そうとしています。この切符は、私だけの力で得たものではありません。慶進中学校・

高等学校の友達、先生、そして家族のおかげです。

私は中学1年生から中学3年生まで、慶進で様々な経験をする機会をいただき、また進路や大学についてたくさんの情報をいただき、じつくりと将来の事を考えることができました。その過程の中で、高校1年生の時、「私は絶対大阪大学の法学部に行く!」と決心しました。ただ、それは、当時の私にとつて、とても現実的とは言えない目標でした。

私は各教科の先生に何をすべきかを尋ね、言われたことをコツコツとやっていきました。しかし、高校3年生の秋、私はスランプに陥りました。センター試験型の模試ではなかなか点がとれず、二次試験型の模試ではD判定、E判定の連続…。しかし、その時、慶進の先生方は、私を信じてくれました。「お前はずっと努力してきたんだから大丈夫。絶対大丈夫。」それは、当時の私にとって多きな支えとなりました。もちろん、その時、先

生方は学習面でも、勉強計画の見直しなどを行ってくだしました。

合格した今、私は希望で胸がいっぱいです。1年生の授業はまだ法律関係のものは少なく、全学共通教育科目が多いのですが、興味深いものがばかりです。大学の先生がリレー方式で講義するものや、著名企業の社長が講義するものなどがあります。また、学生同士が議論をするための部屋がたくさん設置されています。私も友達や先輩や留学生と世界のことや日本のことについてたくさん議論したいと考えています。さらに、法学系のサークルは4つもあり、自治体に政策案などを提案するものなどです。入りたいサークルがたくさんあつて困ってしまいます。

私の大学1年生の間の抱負は「TRY!」です。とにかくあらゆることに挑戦していきます。最後になりましたが、慶進に感謝です。ありがとうございました。後輩の皆さん、応援しています。

慶進という触媒

筑波大学 人文・文化学群

比較文化学類

西村 蝶海

慶進中学校に入学して間もない頃、少し身動きのしにく感じる制服や、複雑な構造をした校舎、そして何より、自分の通っていた小学校とは異なる小学校を卒業してきた名も知らぬ同級生の存在に戸惑い、少なからずカルチャーショックを受けたことをよく覚えています。

今思えば、前に書いた事柄は全て、慶進で過ごした6年間の私が変わるための重要な触媒であったと言えるでしょう。制服からは慶進生としての自覚を、校舎からは勉学に励むのに十分な空間を、友人たちからは自分の持たない考え方や私に努力の必要性を感じさせる刺激を得、私は6年前の私と全く別の私に成長できたように思います。

大学には、中学・高校よりもずっと多くの触媒がありま

す。学ぶ事柄も、中学・高校の時に学んだものとは全く異なり、キャンパスも慶進のものよりずっと広いです。そして、大学に集まる同級生は、校区外や市外に留まることなく、山口県外の日本全国から集まります。もしかすると、日本国外からやって来る同級生もいるかもしれません。加えて、私は山口県から茨城県へ生活の拠点を移すので、方言や気候など、大学以外の要因も私の触媒となるかもしれません。

正直、中学生の頃は、大学に対するこだわりも薄く、勉強嫌いだった私ですが、そんな私が真面目に勉強し、志望大学に合格したのは、慶進という触媒あつてのことだと思っています。慶進で過ごした6年間でさえ、大きな変質をした私なので、より多くの触媒が存在するであろう大学生活の中で、それ以上の変質をし、今の私が予想だにしない私へ成長できることと思います。大学生活を終えた4年後の私と、その変質の過程は、想像するだけで私の胸を躍らせるものです。

SERIES II | The Talking with schoolmate...

## 同窓生



森脇 新

山口大学  
農学部生物資源環境科学科1年

重富 達哉

中央大学  
法学部法律学科1年

梅野 紘希

鳥取大学  
医学部医学科1年

平成24年度卒業

## 4期生の慶進

平成25年の春、慶進中学校・高等学校を巣立っていった4期生が帰ってきました。卒業して一年が過ぎ、それぞれの道に向かって歩み始めています。

彼らはとても運動好きで、毎日のようにバスケットボールをしていました。時には、いま？というタイミングで体育館にいるときもありましたが、卒業後も仲間たちと集まるときは、変わらず「バスケ」だそうです。このような関係が続く仲間のことを思い合う、これこそが慶進で過ごした六年間の証のひとつではないかと思えます。

彼らとの一番の思い出は中学時代です。思春期でもあり、いろいろなことがありました。学校生活、友人関係、将来のことなど様々な葛藤の中、過ごした毎日がとても貴重な日々でした。意見をぶつけ合うからこそ、お互いの個性を尊重し合える仲間になる。それを実感しました。そのような環境で六年間を過ごした彼らは、行動力も身につけ、また他を思いやる気持ちも養われ、しっかりと人間力を身につけています。

数年後、社会に出て行く4期生たちのことを思うと楽しみでした。一人ひとりが慶進で学んだことを礎に、さらに大きな人間となり、これからの国際社会に貢献してくれることを期待しています。

元担任 齊藤 光伸先生

久しぶりに入った第2グラウンドの印象はどうでしたか？

**重富** グラウンド自体はあまり変わってなかったけど、中学生に活気があるなと感じました。

中学校時代、サッカーをしていた頃の自分たちを今振り返るとどんな感じですか？

**重富** 私は人生で一番張りがあったというか、シャキッとしていたように思います。当時はわからなかったけど…

**森脇** 僕は部活生としてはダメでしたね。なんで練習するかがわかっていなかったの、その意味では不良でした。

部活に関しての不良っていうのは、部活に出なかったこと？それとも取り組み方が甘かったということ？

**森脇** 両方ですね。練習がきつくて、そのきつさに対する勝つという成果が自分の中ではリンクしていない

て、「なんでんなきついことやってるんだろう」という反感みたいなものがありました。今考えると、もったいなかったな〜と思います。

梅野くんはどうだったの？部活から得られたものはありますか？

**梅野** 部活をやっていたことで人間的に少し成長できたかなと思います。ただ、もう少し自分で考えて行動ができていたらもっとよかったです。

人間的に成長したなと思うのはどういう部分ですか？

**梅野** 人として基本的なことですが、挨拶とか礼儀とかは部活をやっていたことで学びました。

慶進中学校という3年間は、自分にとってどんな世界でしたか？

**梅野** 中1のときは、勉強も部活も頑張っていました。が、中2、中3は少しだらけていたので後悔があります。それなりに楽しかった

し、いい生活でしたが、もっといろいろなことができたのでは…という思いが強いんです。

**重富** 慶進は人数が少ないですが、その中で競うことが勉強の糧というか、励みになりました。

**森脇** 人数が少ないことで、クラスの壁を越えて、皆、仲がよかったです。

ということ、それが中高合わせての6年間になるともつとですか？

**森脇** そうですね。心地よい「腐れ縁」のような感じで、言わなくてもわかる…みたいな意識です。

そんな慶進時代を経て、今、大学という世界を在校生(後輩)に伝えるとしたら？

**重富** 高校とは全然違います。高校では深く人と関わってきましたが、大学は広くいろんな人と接することで、さまたげな意見や考えを交換しながら世界が広がっていく感じですよ。

**森脇** 僕は、大学はいろんな社会勉強ができる場所だと思います。サークルの費用計算や、会場の手配、旅行の計画を立てたりすること、スケジュールの管理方法も含め、たくさんこのことを学んでいます。

**梅野** 僕は医学部に入りましたが、医学部の人は勉強だけやってきているという先入観があったのですが、実際はみんな勉強プラス特技や個性があつてすごく驚かされました。後輩には、高校時代に「これをしました」と声を大にして言えるものを何か一つ作って欲しいと思います。

**重富** 大学に入って、新入生歓迎コンパなどで高校のときにしていたことを話せないのは辛いので、部活でも留学でもなんでもいいので、自分の好きなことに取り組んでいて欲しいですね。

将来進んで行きたいと思っている世界や夢はなんですか？

**梅野** 僕の場合はもう道は

決まっているんで、大学を卒業したら山口に戻って、知識だけではなく、患者ときちんとコミュニケーションがとれる医者になりたいです。病気だけでなく、患者を診る医者です。

**森脇** 僕は農学部なので、食品開発に進みたいと思っています。そのためには、研究をしっかりやって、その研究を活かせる道に進みたいと思います。

**重富** 中大の法学部に通っている、やはり法曹関係に進みたいと思っています。

これから入ってくる新入生に、「慶進ってこんな世界だよ」と一言で伝えるとしたら？

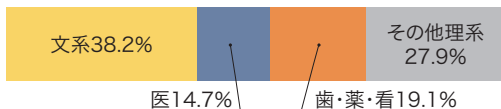
**重富** 自分の努力次第でいくらでも能力を高められる環境が整っていると思います。

**森脇** 人数が少ないので、お互いが競い合えるような雰囲気作りをして、学年全体で高い質を保てることのできる学校だと思います。

## 平成26年度 大学合格速報 (3/27現在)

**国公立大学68名合格**  
**医学部医学科16名(国立大学医学科10名)**  
**薬学科29名**

## ■国公立大学合格者の進路状況



## 国公立大学

|        |            |                 |
|--------|------------|-----------------|
| 北海道大学1 | 筑波大学2      | 千葉大学1           |
| 東京大学1  | 大阪大学1      | 岡山大学1           |
| 広島大学7  | 山口大学22(医7) | 山口県立大学5         |
| 香川大学1  | 九州大学6(医2)  | 福岡教育大学2         |
| 長崎大学2  | 北九州市立大学1   | 防衛医科大学校3(医1) など |

## 私立大学

|         |         |            |
|---------|---------|------------|
| 早稲田大学2  | 青山学院大学2 | 中央大学1      |
| 明治大学4   | 立教大学1   | 法政大学7      |
| 東京理科大学4 | 国学院大学3  | 同志社大学5     |
| 立命館大学15 | 関西大学2   | 関西学院大学4    |
| 西南学院大学2 | 福岡大学20  | 医学部医学科6 など |

## 笑顔

Le photo de Keishin

ほっとラウンジ



慶進の中で、そんな言葉が一番似合う場所「ほっとラウンジ」。中学生にとっても、高校生にとっても仲間との会話は、学校生活の中で大切な時間。しかし、放課後の「ほっとラウンジ」には、楽しいだけでなく、真剣に勉強している生徒の姿もたくさんみられます。オンとオフを切り替えながら、両立する。そんな慶進生がここにはいます。



## 第2回 小さな本箱

## なめとこ山の熊

宮澤 賢治

この小説との出会いは、大学2年生の秋であった。大学の講義の課題として出された作品であり、したがって自ら求めて読んだわけではなかった。しかし、これまで読んできた小説の中でも心に強く残るものとなった。というのも、この小説を読んでも「すぐれた作品は何度読んでも面白く、発見がある」ことが分かったからだ。恥ずかししながら、高校生までは小説を読んでも「面白かった」や「感動した」などといった内容の上っ面の感想しか抱かず、一つ一つの表現に目を向けていなかった。まして、その小説が投げかけている社会的メッセージなど考えもしなかった。自分に変容を与えてくれた大切な作品なのであった。

さて、『なめとこ山の熊』のあらすじを簡単に紹介する。熊捕りの名人の淵沢小十郎は、熊を殺してその皮や臓腑を売って生計を立てていた。小十郎は熊を殺すが、いつ熊に殺されてもおかしきはなく、その意味で両者の命は平等であった。小十郎は最終的に熊に殺されてしまい、物語は終わりを迎える。

宮澤賢治がこの小説を通して読

者に投げかけたメッセージは何だろうか。小説を読むときは主人公視点になってしまいがちだが、私は、途中で出てくる荒物屋の主人に注目した。主人のもとへ小十郎は熊の毛皮を売りに行くのだが、主人は、小十郎の足もとを見て、明らかに安い値段で買い取るうとする。ここで主人は熊の毛皮を商品としか見ておらず、それは熊の命を商品と捉えているともいえる。この商人の姿に嫌悪感を抱く読者が大半だろう。

しかし、ふと自らの生活を振り返ってみると、商人は他ならぬ私たちであることに気づかされる。私たちも動物の命を商品として扱っている。本来は、人の命も動物の命も同じ命で平等であるはずである。しかし、動物の命は当然のように商品として売られている。そしてその商品を購入しなければ私たちは生きていけない。この現実、に絶望した作者が描いたのが、小十郎と熊であり、この両者の関わり合いに理想の社会の姿を現出したのだらう。

国語科 河村 真二先生